



疋田 智／著

## 自転車の安全鉄則

新書版 245頁 定価¥740 (税別)

発行所：朝日新聞出版

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL 03-5540-7793

ISBN978-4-02-273247-7 C0295

2008年発行

[評者] 名古屋大学エコトピア科学研究所 特任講師 岡山 朋子

この「循環とくらし」第3号の巻頭インタビュー記事にも登場する疋田智氏の著書。「自転車ツーキニスト」として発言する疋田氏が、「なぜ日本では自転車が普及して確固たる移動手段として存在するにもかかわらず、他国と比べてこれほど自転車事故が多いのか」という問いに対して「インフラ」「法整備」「乗る人の意識」の3つが不備のまま残されていることを理由として指摘しています。そして今こそ、この3つの不整備を乗り越えなくてはならないとして、それぞれの問題の現状をわかりやすく説明しながら、最後にいくつかの重要な提言を行います。

普段、私たちは自転車に乗るという行為を歩くことと大差なくとらえているのではないのでしょうか（少なくとも私はそうです）。歩行者が「さあ、歩道を歩くぞ!」と意識しないように、自転車も「さあ、自転車を運転するぞ。気をつけよう!」と意識したりしません。そういった意識で本書を読むと、指摘される自転車の走行に関する法律の矛盾、それに伴う道路の矛盾について、いちいちハッと気づかされ、目から鱗が落ちます。

そして改めて身近な道路をみつめてみると、本当にその通りの矛盾だらけ。私はつい、近所の車歩分離式スクランブル交差点横の交番で警察官に質問してしまいました。

私「この交差点は私（自転車）は歩行者

信号とクルマ信号とどちらに従えばいいのでしょうか?」

警察官「歩道を走って横断歩道を通行したいときには歩行者の安全が確保されていれば歩行者信号で通行していいですよ」

私「でも自転車は原則的に車道通行ですよ? 車道を走ってきたときには?」

警察官「軽車両は車道通行ですね。その場合はクルマと一緒に通行してください」

私「じゃあ、私（自転車）は歩道でも車道でもどちらを通行してもいいんですね?」

警察官「歩行者の安全が確保されていれば…（振り出しに戻る）」

いえ、矛盾に気付いたからといって警察官を困らせまじょうと言っているのではありません。こういった矛盾によって自転車事故が発生しているのだという事実について、本書は警鐘を鳴らしているのです。

本書が自転車事故を減らすために、とにかくどうしても訴えたいことは「左側通行の厳守」です。本書を読んだら、もれなくその日から自転車に乗るときには（交差点をわたるときには交差点手前の横断歩道を右折できないため最初は面倒な気もしますが）左側走行を遵守するようになるでしょう。本書を読む前の皆さんも、とりあえず「左側通行」を心がけてください。